

5-10		主題	職員が安心して働ける施設を目指して	
介護リフト		副題	リフトの使用で職員の腰痛減少 入居者・家族の希望にも応える	
研究期間	40ヶ月	事業所	特別養護老人ホームハピネスあだち	
発表者：遠藤 大知（えんどう だいち）			アドバイザー：	
共同研究者：				
電話	03-5839-3630	メール		
FAX	03-5839-3632	URL		

今回発表の 事業所や サービスの 紹介	ハピネスあだちは足立区江北地区にある、2006年に開設された150室のユニット型特別養護老人ホームです。地域包括支援センター、ショートステイ、デイサービスなどが併設されています。 入居者の方にも近隣の都営住宅からの方も少なくなく、地域の方々のボランティアもあり、地域と共にある施設となっています。
------------------------------	---

<p>《研究前の状況と課題》</p> <p>2006年に開設した特別養護老人ホームハピネスあだちは入居者の重度化が進み、介護量が増加し、介護職員1人での移乗が困難となるケースが増加している。それと同時に職員の腰痛による離職が増加し問題となっていた。新しい職員が入っても、移乗が原因で腰痛になるのは変わらず、入職しては辞め、入職しては辞め…といった負のスパイラルができていた。入居者と信頼関係が築けている職員が退職することは、施設にとっても大きな痛手だった。</p> <p>移乗技術が高い職員でも、全介助で脱力した体重の重い入居者に対しては力任せになることがある。その時に足を剥離させてしまうことがあった。また、骨密度が低い入居者の骨がいつの間にか折れていたことがあった。移乗の原因の一つとして考えられた。</p> <p>移乗に関して、早急な対策が必要だった。</p>

<p>《研究の目標と期待する成果》</p> <p>介護リフトを導入することが検討された。日本には国内製・海外製、ベッド設置型、天井走行型、床走行型等のリフトがある。また、スリングシートに関しても脚分離型、シート型がある。その中から、当施設に合うものを選定する必要があった。</p> <p>介護リフトを導入することによって、第一に職員の腰痛減少が考えられた。そして、入居者に対しての安全な移乗を提供できると期待した。</p> <p>職員の安全を守ることが、入居者の安心・安全に繋がると考えられる。</p>

《具体的な取り組みの内容》

様々な介護リフトをデモンストレーションした。当施設ではリフトは「面倒くさい」というイメージを持っている職員が多かった。床走行型リフトはリフト自体を持ってくるのに時間がかかった。脚分離型のスリングシートは車いすに移乗した際の脱着に時間がかかった。そこで、リフトの面倒くさい作業を一切排除した。

使用する入居者を決め、どの職員も移乗は全てリフトを使用することとした。スリングシートを敷きっぱなしにして、使用の有無が分かるようにした。

朝の申し送り後にリフトの使用方法を指導した。リフトは機種変更した携帯電話と同じと捉え、リフトのデモンストレーションの時間を十分にかけた。その結果、リフトはベッド設置型、スリングシートはメッシュタイプのシート型を選択した。

当初、全額施設負担でリフトを購入する予定だったが、東京都の介護従事者業務省略化支援事業の助成金を利用し、半額補助していただいた。一度に9台の介護リフトを購入した。追加で介護リフトを4台購入した。

ミクニ マイティーエース 6台

モリトー つるべー 7台

モリトー パオメッシュグレーフル 13枚

《取り組みの結果と評価》

2008年度 腰痛による離職 10名

2009年度 腰痛による離職 5名

2010年度 腰痛による離職 0名

介護経験が少ない小柄な女性職員でも、安心して入居者を移乗させ、統一した移乗技術を提供できるようになった。

ここで、リフトを使用して車いす以外のものに移乗して、入居者や家族の希望にも応えることができた症例を紹介する。

<症例1>トイレで排泄させて欲しい

当施設居室のトイレは狭く、介助にての排泄は困難だった。しかし、リフトを導入したことによりポータブルトイレを使用し、便器での排泄が可能となった。それまでは便秘で下剤を服用していたが、薬に頼ることのない排便となった。

<症例2>マッサージチェアに座らせたい

限られたスペースの中での2人介助でのマッサージチェアの移乗は職員の腰痛を誘発させる原因となっていた。リフトを使用したことによって、マッサージチェアへの移乗も楽に行なえるようになった。振動モードのマッサージが排便にも繋がった。車いすへの移乗も座り直すことなく深く座れるようになり、A氏・職員の身体的負担も軽減した。

《まとめ》

リフトを使用し、職員の腰痛が減少した。

入居者・家族の希望にもリフトの使用で応えることができた。

《提案と発信》

介護施設にとって、人材は財産である。同じ施設で笑顔で安心して働ける環境を作ることには施設の責務である。今回はリフトというハード面を整えただけで職員の安全を守ることができた。顔馴染みの職員が対応することで、入居者も安心して暮らすことができる。介護という仕事を自信持って続けられるよう取り組み続けたい。

【メモ欄】